

●発行日/2018年1月10日

●発行元

特定非営利活動法人

ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢釣町22-5 2F

TEL&FAX 024-563-6255

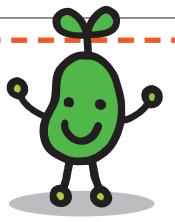
URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

私にとっての フリースクール 後編

赤い羽根地域課題解決型募金への ご協力よろしくお願いします！



私たちビーンズふくしまは「赤い羽根共同募金 地域課題解決型募金」にエントリーさせていただきました。この取り組みは「子ども・若者の居場所の必要性」を広く訴えかけ、また、皆さまから頂いた募金は、フリースクールの子どもたちや、貧困・生活困窮家庭の子どもたちのために使われます。例えば子どもたちが大切にしているフリースクールの建物の維持費や、子どもたちの日々の学びの教材の購入、餅つきやカフェなど地域の皆様たちと共に創るイベントの開催など。今回の募金活動を通して



どうやったら募金が集まるかな。子どもたちと一緒に考える「わくわく夕食会」の様子

て、子どもたちの笑顔を一つでも多く生み出したいと考えています。

生きる力を育む、 安心できる居場所

ビーンズふくしまは、これまで不登校やひきこもり、貧困など様々な理由で社会と接続することが困難な子ども・若者を「居場所」をはじめとした活動を通してサポートしてきました。しかし、フリースクールも子ども



旅行中の子どもたちの元気な姿をパチリ

たちの保護者の方から利用料と寄付金で賄っており、毎年財政的に運営が厳しい状況にあります。また、若者の居場所を作るユースプレイス事業や生活困窮家庭の学習支援事業も、その活動をより充実したものにしたいのですが、同じく難しいのが現状です。

共に力を合わせて、 子ども・若者の居場所を守る

そこで、皆さまにお願いです。子ども・若者の居場所を守るために、募金にご協力いただけないでしょうか。ビーンズふくしまは、設立当初から、皆さまと共に考え、共に動き、ここまでやってくることができました。子ども・若者の居場所を継続してつくり、その必要性を訴えていくこの取り組みも、皆さまと共に動いていきたいのです。どうぞ赤い羽根共同募金へのご協力の程よろしくお願ひいたします。

アンケートのお願い

ビーンズ通信をいつもお読みいただき、ありがとうございます。また、前回へのアンケートにお答えいただいた皆さま、お忙しい中、本当にありがとうございました。皆さまからの温かいメッセージにあらためて感謝いたしますと共に、より皆さまに読み

やすい紙面作りをしていく必要があることを感じました。そこで、皆さまにはお手をおかけすることは十分承知の上で、今回もアンケートを取らせていただきたく、ご協力のほどあらためてお願ひいたします。

前回はビーンズ通信vol.84についてのアンケートでしたが、今回は、ビーンズ通信vol.85に関してのアンケートとなります。皆さまの率直なご意見をいただきたいと

思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、前回同様、同封しましたアンケート用紙にご記入の上、FAXにてご返信いただくか、項目ごとに番号を記入の上、メールにてのご返信をお願いいたします。



●ビーンズふくしまのホームページ こちらへアクセス <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

やっぱりね。そんな時期に学校の先生が家に来て。校長先生が「こういうところあるよ」と紹介してくれ、それで知ったんですよね。

佐々木●いったん見学に来たよね。来てみて、どうだった？

高橋●俺、施設だと思ってたから。どつかの事務所みたいな、そういう感覚で来たから。一軒家って知らないで、驚いた。

佐々木●沖さん(前回のインタビューで登場)も「家だ!」っていってたよ(笑)

高橋●懐かしい(笑)みんなそういうよね、絶対!

みんなと一緒に 成長してきた

高橋●あと最初、フリースクールの説明されたときに「T君(高橋さんと同じ学校の子)はカラオケいってます」と聞いて。「え!? カラオケ?」って、すご

いっていう感じはしなかったから。「ここはここまでやばくないな」と笑って。みんな一緒に成長してきた。高橋愛斗さん(以下、高橋)

沖さんも「家だ!」って
いつてたよ(笑)
みんな一緒に成長してきた

絶対!
みんな一緒に成長してきた

くびっくりした(笑)
佐々木●そうだよね(笑)

高橋●それで、どういう場所かわからぬまま、とりあえず「なんかここにきたほうがいいな」と、その日のうちに決めた。たぶん、合わないという感じはしなかったから。「ここまでやばくないな」と笑って。高橋愛斗さん(以下、高橋)

佐々木●フリースクールで過ごすうちに、なんか変わったよね。卒業する頃は、みんなを笑わせてくれたりとかして。

スタッフ佐々木(以下、佐々木)



親は、フリースクールに行くようになつて
心配しなくなつたつて言つてた。



高橋●そういう風になりたかったんでしょうね、本当は。中学校の時に。自分で変わったかな、っていうのは……**他人に対して「ここはダメ、ここはいいよ」というところの見せ方ができるようになった気がする。**中学校ではそういうのできなかつたんだと思うんで。きっとここで、**信頼関係を作つてこれたっていう部分が大きい**ですね。なんというか、みんなと一緒にいて、しゃべるようになったから。みんなで一緒に成長して……年下メンバーが入つてくることで、なんとなく、おおらかになった気はする。



佐々木●親御さんとか、周りは何か変わつた?

高橋●親は、フリースクールに行くようになって心配しなくなつたつて言つてた。

追い詰められない程度に、ひとりになるのも大事

佐々木●「学校に行きたくない」と思つてゐる子にメッセージを送るとしたら?

高橋●ムリしない範囲でひとりになつたらいつかな。

佐々木●というと……?

高橋●俺はフリースクールに行くまで半年くらいずっと家にいたんですけど。結局、俺はひとりになるその時間が充実してたなって。でもたぶん、ひとりで

過ごすつていうのも大変なんじゃないかな、とは思う。

佐々木●確かに、いろいろ考えるしね

高橋●何かしら、つらい部分はあるんですよ。ご飯を食べるにしても、「俺は学校行つてないけどな」ってなるし。親はどういう目でみてるのかな、って思うこともあるし。ただ、個人で悩みすぎちゃう部分もあるから、耐えられなくなつた程度に、ひとりになつたほうがいい。

佐々木●なるほどね。

高橋●ひとりでいて、周りに助けを求めるときは、わかんないこともあるだろうけど、親もいるし。**真剣に、「俺は**



こうだから行きたくない」っていうのをちゃんと言えることが必要な気がする。俺は、気持ちはあつたんですけど、それをちゃんと親に言ってなかつたので。だから、何か言わてもいいから、とりあえず、ちゃんと言う。言った後で、たぶん何かしらの変化はあるんだと思うんです。

佐々木●親御さんに変化がある?

高橋●そうそう。だから、とりあえず言ってみて、それでもだめだったら……今、なんかそういうの充実してるじゃないですか。電話で相談とかできるの。俺、結構電話してたんですよ、そういうのに。だから、そういうのでもいいから、**なるべくしゃべりつつひとりになる、みたいのがいいかな。**自分のこと考えられるから。

受け止めてもらえると、何かしら変わっていく

佐々木●周りの大人たちに何か伝えようとしたら?

高橋●不登校とか、その経験って結局本人しかわからないから、周りの人にとっては理解できないことかもしれない。でも、理解するようにするとか、「理解できるように頑張るから」という感じでいてほしいかなあ。あやふやだけだ。



佐々木●とりあえず、まずは受け止めてほしいよね

高橋●そうだね。うちの親はそういうの、俺に対してすごくやつてくれたので。あとは、なるべく子どもとしゃべつて、どんな変化があつたかよく見るとか……すごく大変だつたけど。でも、そういうのだけでも、結構変わるかもしれない。**学校にいかなくなると人間関係がリセットされるから。**それで親子の関係もけっこう変わるんじゃないですかね。

親御さんとか、周りは何か変わつた?

高橋 愛斗さん(23歳)
中学2年生(2008年5月)に通い始めた。高校進学後、19歳のとき(2014年3月)に卒業。